６井草高第１６２２号

令和７年３月３１日

令和６年度　東京都立井草高等学校　学校経営報告

校長　粕谷　真由美

令和６年度はスクール・ミッション、スクール・ポリシーを基盤に４項目の中期的目標を掲げ取組を進めた。

【中期的目標】

1. 高い志と自主・自律の精神を養う。
2. 自らの進路を切り開くことができる人材を育成する。
3. 国際社会で活躍する人材を育成する。
4. 不断に挑戦する教職員集団として、チームとしての教育力向上を図る。

【令和６年度　具体的な取組状況】

教育活動に係る具体的な目標値と達成状況は、以下のとおりである。

|  |  |  |  |
| --- | --- | --- | --- |
| 項目　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　　目標値　　　実績値 | | | |
| ①学習指導 | | | |
| （ア） | 生徒による授業評価、学習への意欲喚起に関する肯定的評価 | ９５％ | ８１％ |
| （イ） | 学校評価、一人１台端末を活用した学習指導の充実に関する肯定的評価 | ９０％ | ６８％ |
| （ウ） | 国公立大学や難関私立大等入試問題分析を踏まえた学習課題等の共有 | 延べ５０課題 | 実績値不明 |
| （エ） | 家庭学習の定着（週１０時間以上） | １学年７０％  ２学年７５％  ３学年８０％ | １学年２０％  ２学年６０％  ３学年８３％ |
| （オ） | 長期休業期間中講習への参加生徒数 | 延べ８９８名 | ７２８名 |
| ②生活指導 | | | |
| （ア） | 学校評価、特別活動に関する生徒による肯定的評価 | ９０％ | ９５％ |
| （イ） | 学校評価、規範意識に関する地域による肯定的評価 | ９０％ | ５１％ |
| （ウ） | 学校評価、校内美化に関する肯定的評価 | ８０％ | ７５％ |
| （エ） | 部活動年間継続率 | ９０％ | ９５％ |
| （オ） | 学校事故発生件数 | ０件 | １件 |
| ③進路指導 | | | |
| （ア） | 第一志望進路決定率 | １００％ | ８４％ |
| （イ） | 共通テスト受験者 | ９１％ | ９２％ |
| （ウ） | 英語検定取得者 | １級１名  準１級１５名  ２級１５０名 | １級０名  準１級１６名  ２級２３７名 |
| （エ） | 特別講習への生徒参加率 | １００％ | ７９％ |
| （オ） | 国公立大学現役合格者 | １５名 | １４名 |
| （カ） | 難関私立大学（早大・慶大・上智大・東理大）現役合格者 | ３０名 | １６名 |
| （キ） | ＧＭＡＲＣＨ（学習院大・明大・青学大・立大・中大・法大）現役合格者 | １５０名 | １２２名 |
| ④国際理解教育 | | | |
| （ア） | オーストラリア国際交流事業、次世代リーダー育成道場への応募者 | ６７名 | ８９名 |
| （イ） | 国際交流体験学習 | 年間４回 | ５回 |
| （ウ） | 留学生受け入れ等に関わるバディ生徒 | 延べ５０名 | 延べ６９名 |
| ⑤その他 | | | |
| （ア） | 学校評価、教育活動の発信に関する保護者による肯定的評価 | ９０％ | ９３％ |
| （イ） | 学校見学会・説明会参加者数（延べ数）  授業公開参加者数（延べ数） | ２，０００名  １，３００名 | ２，０９３名  １，２８６名 |

【令和７年度に向けて】

（１）学習指導について

学習への意欲喚起に関する肯定的評価は８割、１，２学年における家庭学習の定着はそれぞれ２割、６割と達成度が極めて低い項目がある。自律的な学びを促す授業や週末課題など各教科が工夫するとともに、高い志を維持し第一志望を達成させるための指導の一環として、進路指導部による実践の工夫を図る。また、一人１台端末を活用した個別最適な学びや協働的な学びについては、肯定的評価が7割弱にとどまり、十分な成果が確認できなかった。次年度は東京ダッシュボードの導入年度となるため、一人１台端末の活用とともに、適時生徒の学習状況について実態把握を行い、一人一人の志を大切に育む学習指導をさらに推進したい。

（２）生活指導について

前年度、生徒による特別活動に関する肯定的評価が９割に届かなかったことを踏まえ、部活動加入率から部活動継続率へと目標項目を変更し、いずれも９割を数値目標とした。同窓会、PTAとの連携、協働をさらに推進し、特別活動の充実を図った結果、どちらも95％となり成果がみられた。上履き指定の廃止による校内の汚れに関する懸念は、委員会による校内美化の推進が功を奏し、肯定的評価が７割を超えた。次年度は生徒会等生徒による教育活動への主体的な関わりを推進し、規範意識に関する地域による肯定的評価の向上を目指す。

（３）進路指導について

今年度から、第一志望の進路実現100％を数値目標に掲げ、一段階上のステージへと移行した。担任による面談や教科による講習などにより、志を高く、最後まで諦めさせない指導を実施した結果、第一志望進路決定率８割強を叶えることが出来た。共通テストをほとんどの生徒が受験し、そのうち１割を超える生徒が国公立大学受験型で出願している現状を踏まえ、次年度は、進路指導部による模擬試験活用指導や出願指導会議などに取組み、進学校としての指導の充実を図る。あわせて、総合的な探究の時間を活用した全教員による個別指導について、進路指導部のリーダーシップのもと、学びの深化と進路実現に資する取組として定着させる。

（４）国際理解教育について

海外修学旅行再開に当たり、必要な業務を分掌業務に位置付け、今年度は無事実施することが出来た。国際理解教育に係る体験学習等の精査を行い、都教委事業を活用しながらより教育効果の高い指導計画へと改善を図るとともに、国際理解教育の取組と成果について、より一層発信する。

（５）その他

　受信専用メールボックスを活用した欠席連絡やｃｌａｓｓｉを活用した保護者向け発信を定着させることができた。次年度はｃｌａｓｓｉに一本化し、より丁寧で伝わる情報発信となるよう工夫する。またＨＰを活用した情報発信について、次年度より国際教育広報部の業務に位置付け、更なる改善を図る。

（６）学校経営について

令和６年度は、授業料実質無償化業務の煩雑さに加え、人事異動による経営企画室職員の大幅な入れ替えがあり、行政系職員の超過勤務が発生した。また、教育系職員についても、個人面談、部活動、令和８年度入学生向け教育課程の改編に取組んだ結果、超過勤務が発生した。学年主導型から各分掌主導型への業務整理とともに、起案回付を活用した迅速な情報共有など教育系職員と行政系職員の協働や業務内容の共有をより一層図り、業務改善と働き方改革を推進する。さらに、校内研修の充実と風通しのよい執務室の環境づくりに引き続き取組み、服務事故の根絶ならびに生徒のみならず教職員のウェルビーイングの実現を図りたい。